

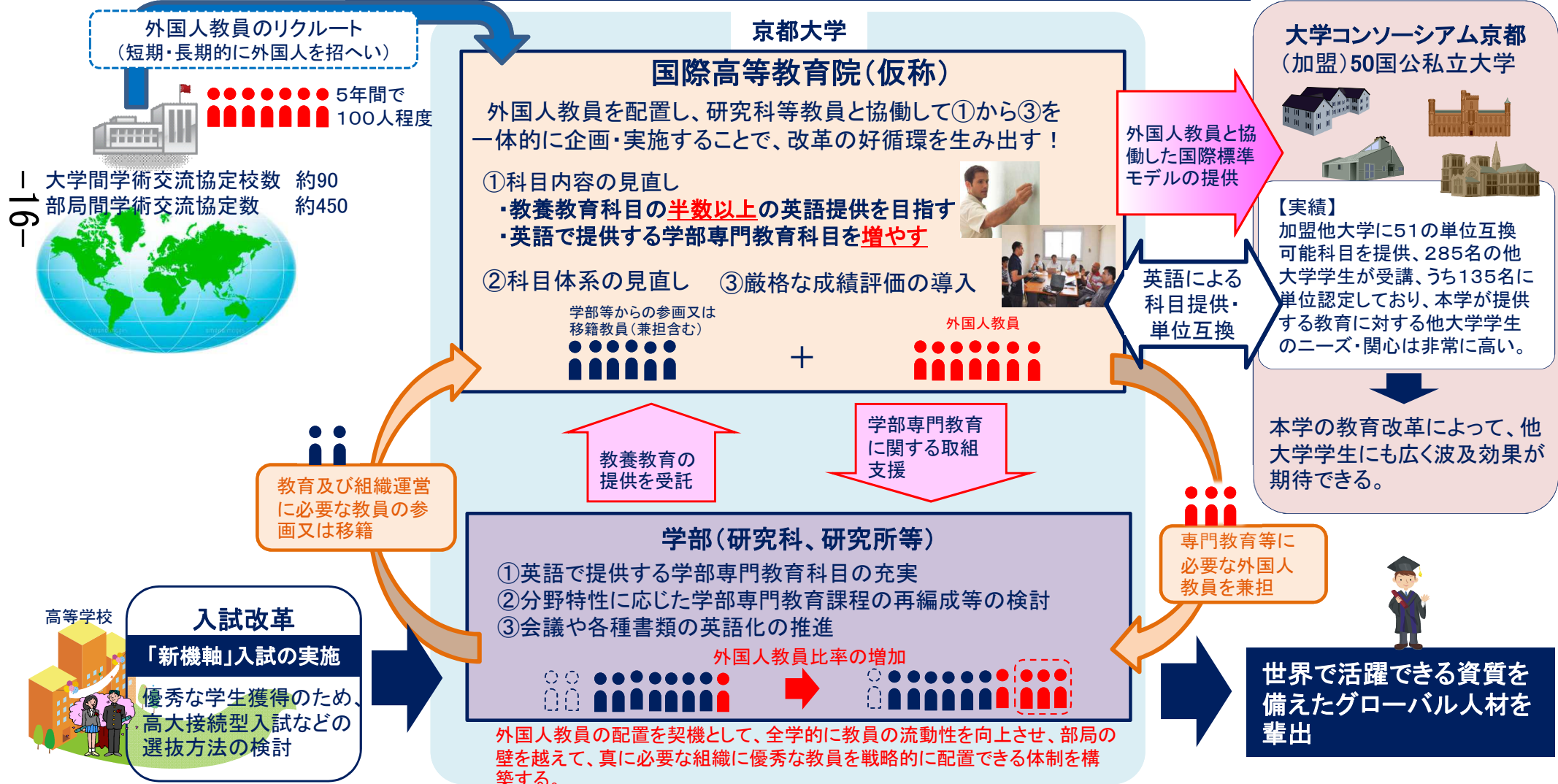
グローバル化に対応した教学マネジメントのための組織改革の概要 ～国際高等教育学院(仮称)の設置及び学部等のグローバル化の推進～

英語力や教養力を強化し、国際的に活躍できるグローバル人材を育成できる体制整備のため、全学的な大学教育改革に着手。

これを実現するために

抜本的な組織改革を行い①科目内容の見直し、②科目体系の見直し、③厳格な成績評価の導入に取り組むことで、国際標準モデルの大学教育システムを確立する。

このシステムを企画、実施に移していく全学的な教学マネジメント体制を構築。



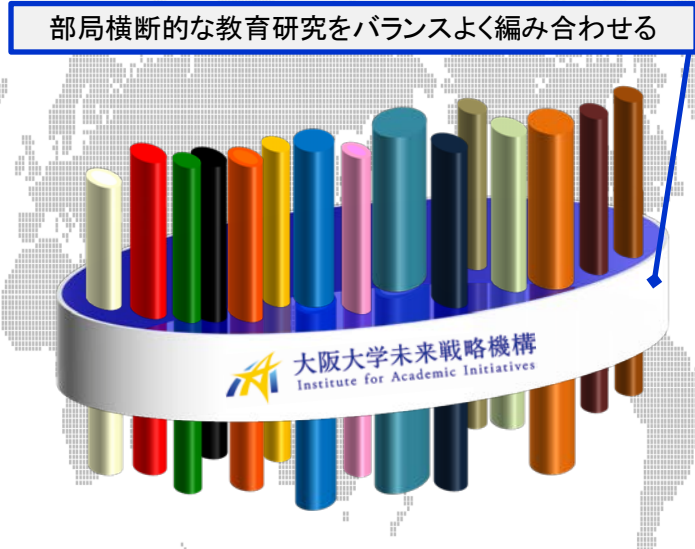
大阪大学の中に、総長が真に力を発揮することができる、理想的なグローバル大学として「**大阪大学未来戦略機構(IAI)**」をつくり、この運営を通じて、**総長の強力なリーダーシップ**の下、**スピード感をもって積極的に大学改革に取り組む**。

I 大学運営の特性

- ①大学の目的は学問と教育であり、「**多様性**」や「**持続性**」が活動の基本。(いかなる時代のいかなる課題にも対応)
- ②学問と教育を行うのは**教員一人ひとり**であり、各教員の**活動レベルを如何に上げるか**が重要。

II 大学改革の課題

- ①大学発展の原動力である**部局の自主性**と、部局を超えた取組を行うために必要な**学長のリーダーシップ**との**適切なバランス**をとることが難しくなっている。
- ②競争的資金により実施される教育研究プロジェクトは、**部局を中心とした体制で推進することが多く、終了時に大きな視点での見直しが行いにくい**。

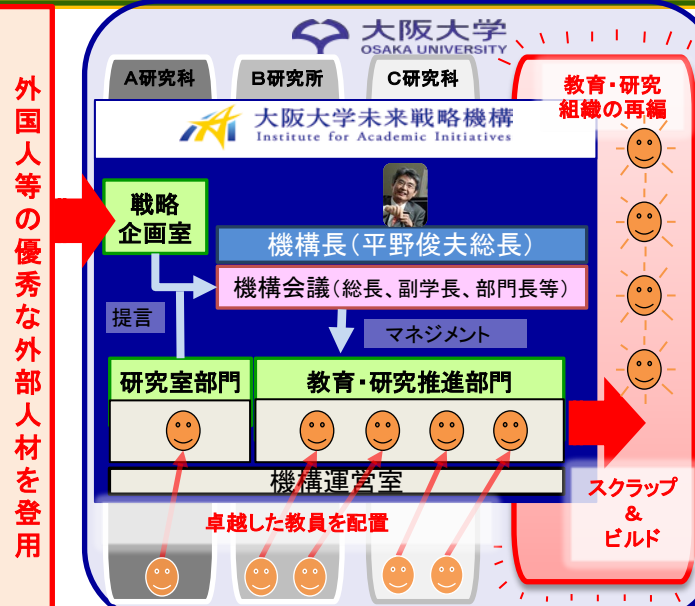


III 改革の方向性

- ①**大学全体の力を最大限発揮**
部局の**自主性・専門性(縦糸)**と、**部局横断的な教育研究(横糸)**の緊張関係を**駆動力に変換すること**により、**大学全体の力を最大限発揮する**。
- ②**部局横断的な教育・研究を総長直轄で推進**
部局横断的な教育・研究を、部局から独立して**トライアル&エラー方式**により推進し、**総長をはじめとする大学執行部(機構会議)**が**直接運営**する。
- ③**大胆な挑戦と、スクラップ&ビルドで未来へ**
異分野融合による新しい研究やグローバル人材の育成に**大胆に挑戦**し、終了後は**将来性を見据えたプロジェクトの見直しや研究科再編など(スクラップ&ビルド)**に柔軟につなげる。

IV 未来戦略機構での具体的な取組

- 戦略企画室(3つのチームを設置)
未来戦略機構の企画部門として、**機構の教育研究活動のマネジメントを支援**。
海外や企業等からの外部人材も活用し、教育改革や新たな研究、グローバル化に関する戦略の企画、提言を行う。
- 教育・研究推進部門(H24年度は7部門)
卓越した教員を専任で配置し、異分野融合による新しい教育研究課題等をマネジメントする。
[具体例]
●超域イノベーション博士課程プログラム
●創薬基盤科学研究 等
- 研究室部門(H25年度に2研究室)
科学・技術や国際化に関する政策研究を行い、機構の運営に活用する。



V 改革の効果

- ①**世界屈指の研究型総合大学を実現**
課題への挑戦とその検証という **PDCAサイクルを主体的かつ機動的にマネジメントする体制**により、大阪大学の強みを引き上げ、**世界トップブランドの大学を実現**。
- ②**激変する社会の期待に応える**
グローバル人材の育成や世界的な研究成果の創出など、**大学に求められる機能や課題の解決に、的確かつ効果的に対応し、激しく変化する社会の期待に応える**。

「学び続ける教員」のための教員養成・研修高度化事業

—京阪奈三教育大学連携による教員養成イノベーションの創生—

☆目的☆

京阪奈三教育大学連携推進協議会の下に「教員養成高度化連携拠点」を共同設置することにより、中央教育審議会が提起する「教員養成の高度化と教職生活全体を通じた学びを継続的に支援するシステム」をリージョナル・レベルにおいてモデル構築する。

1. 高度専門職業人としての教員養成の高度化と質保証に向けた三つの課題に三大学が共同して取り組む。
2. 三大学の資源の相互活用を図るなど、連携のリージョナル化を行う。

京阪奈三教育大学連携推進協議会

教員養成・研修高度化事業推進部会

三大学連携拠点における事業・研究開発の連携・調整

教員養成高度化連携拠点

次世代教員養成センター

(ICT等を活用する次世代教員養成事業)

- ・ 情報教育部門
- ・ 課題探究教育部門

(奈良教育大学)

教職キャリア高度化センター

(「学び続ける」教員サポート事業)

- ・ 初任期支援部門
- ・ 教職キャリア支援部門

(京都教育大学)

教員養成高度化センター

(教員養成の高度化事業)

- ・ 大学院教育課程開発部門
- ・ 教育プログラム開発・評価部門

(大阪教育大学)

1. 「学び続ける教員」教員養成・研修高度化事業の三つの課題

- ICT等を活用する次世代教員養成
 - ・ ICT活用や双方向遠隔授業を取り入れた教育方法及びモデルプログラムの共同開発と実施
 - ・ 「学び続ける教員」を育むための学校現場と連携した教員養成モデルの開発と、課題探究教育を推進する実践的指導力育成プログラムの実施
- 「学び続ける教員」サポート
 - ・ 教育委員会や学校現場との連携による、修士レベル化に対応する研修プログラムの開発、ならびに現職教員のフォローアップとサポートの実施
- 教員養成の高度化
 - ・ 修士レベル化を拡大するモデルの構築と運用、博士課程の設置検討
 - ・ 外国語コミュニケーション力、教科教育開発力を持つ教員の養成

2. 連携のリージョナル化

- 相互の特色と強みを活かした教育・研究の活性化
 - ・ 相互の資源の活用による、三大学の資源の相互活用
 - ・ 学生支援・就職支援の連携実施
- 事務連携
 - ・ 事務電算システムの一括購入などによる、大学管理的経費の節約